

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	
目標年度	令和16年
市町村名 (市町村コード)	諸塚村 45429
地域名 (地域内農業集落名)	柳の越園芸団地 (黒葛原集落)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	1.1 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	1.1 ha
② 田の面積	0 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	1.1 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	0.7 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	0.7 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

- ・諸塚村が施設園芸用地として造成し、農業者へ貸し出しを行っている。
- ・ミニトマトを中心として、ホウレンソウ・スイートピーを生産している。
- ・高地にあることから、安定的な水利を確保することが難しい。
- ・高齢化による働き手の減少、異常気象による団地の高温化、施設の老朽化が課題である。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- ・作業の効率化を図るためスマート農業の導入を進める。
- ・現在耕作しているミニトマト等以外に、新たな高収益作物の作付けを検討する。
- ・地域内外からさまざまな担い手を募集し、園芸団地の維持を図る。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

担い手(認定農業者等)への農地の集約・集積化を基本とし、団地面積の維持を図る

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	83 %	将来の目標とする集積率	100 %
担い手が利用する農地面積の団地数及び面積は、6経営体、平均20a(令和6年度時点) 現状の100パーセントを維持する。(令和16年度)			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
現在の担い手を中心とし、園芸団地の面積・規模拡大を図る。その際、農地バンクを活用して所有権移転及び賃借契約を行う。
(2)農地中間管理機構の活用方法
園芸団地近隣に貸し付け可能な農地がある場合、村と連携しながら農地集約化を図る。その際、農地中間管理機構を活用し手続きを円滑に進める。
(3)基盤整備事業への取組
担い手のニーズを踏まえ、農地耕作条件改善事業や畑作等促進整備事業を活用し、高収益作物転換への支援やスマート農業の導入等の基盤整備を行う。また、施設の老朽化に備え、修繕事業等の活用を検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタル等の支援や生産する農地をあっせんし、新規就農者や農業法人の就農をサポートする。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
地域内の農作業の効率化を図るため、作業化困難な高齢者や農繁期の一部作業を農業協同組合やウッドピア諸塚、農事組合法人に委託し、遊休農地や耕作放棄地の発生防止を図る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☒ ④畑地化・輸出等	☒ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

- ①イノシシやシカの被害が拡大しないよう防止柵を設置するとともに、地域での追払い活動や緩衝帯の設置、被害があった場合の捕獲活動を地域内外で行う。
- ③ドローンを使用した農薬散布や無人での草刈りロボット等スマート農業化を推進する。
- ④高収益作物を耕作するため、水田の畑地化を進める。
- ⑤遊休農地の発生を予防するため比較的耕作が容易な栗などの果樹を植栽する。
- ⑦農作業が困難な農地に関しては、定期的に手入れを行ったり、粗放的農業を取り入れる。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農		野菜	0.23 ha	0 ha	野菜	0.23 ha	0 ha	1	
認農		野菜	0.17 ha	0 ha	野菜	0.17 ha	0 ha	2	
認農		野菜	0.16 ha	0 ha	野菜	0.16 ha	0 ha	3	
利用者		野菜	0.14 ha	0 ha	野菜	0.14 ha	0 ha	4	
認農		野菜	0.16 ha	0 ha	野菜	0.16 ha	0 ha	5	
認農		野菜	0.28 ha	0 ha	野菜	0.28 ha	0 ha	6	
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	6経営体		1.14 ha	0 ha		1.14 ha	0 ha		

- 注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。
- 2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。
- 3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。
- 4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。
- 5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。
注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。

